zovski の庫車附近から獲た木牌の斷片に見にて居る王の名によつても證することが出來る、唐書には蘇伐疊は蘇伐勃駃（Sou-fa Pou-kiue）の子となつてあるが、駃（kiue）は思ふに駛（che）の誤りであらう』と論じ、かくて Swarnate が蘇伐疊であることが確かなる上は、此等の Šaldrang の木牌が太宗時代卽ち七世紀のものであらねばならぬといふに歸着して居る。

更に此の木牌の龜茲語が眞に龜茲語であるとしても、それは或る征服者の言語が被征服者の間に行はるるに至つたものであるかも知れないといふ疑を打ち消す爲には、次の如き論證がある。

『玄奘三藏に據ると「王屈支種也」と記されてあるが、實に「白」なる姓は一世紀以來當時に至る迄龜茲國の王姓である、されば B 種のトカラ語なるものは少くとも一世紀以來龜茲の土語であつたものである、ほゞ紀元前の百年頃、卽ち漢の武帝の頃迄溯ることを許す支那の記錄に、何等此の國の人種の變遷を書いてゐないことを考へると、尙以前から同樣の有樣であつたことは疑ない』といふのである。

たゞ一ツ Lévi 氏によつて殘された問題は、前に記した kṣuṁ なる語の解釋と、1-23 kṣuṁ 及び 1-6 kṣuṁ を何年と見るかといふことゝである。尤も氏は 1-23 kṣuṁ を、初め支那の年號の制を支那に臣事した龜茲王が用いたものであらうと考へ、二十三で終る年號は貞觀よりないから、其の元年から二十三年迄 Swarnate が在位したものと假定したのであつたが、これは研究を進めるに從がつて矛盾を生じて來たので中止して、只だ kṣuṁ の何年といふのは統治の年（Les années du règne）であらうと推察したのである。kṣuṁ の語義に就いては、次に紹介する Konow 氏の論文中に、氏の解釋が見にるが、1-23, 1-6 の年に就いては、此の論文の發表せられた翌年、卽